

令和6年度 研修計画

1 研究主題

互いのよさを認め合い関わりながら学ぶ子どもの育成
～聴いて発言をつなげて話し合って、考えを深める授業づくり～

2 主題について

本校では、3年間継続して研究主題「互いのよさを認め合い関わりながら学ぶ子どもの育成～聴いてつなげて話し合って、考えを深める授業づくり～」のもと、授業改善に取り組んできた。1年目はペア学習やグループ学習の場を設定することで、自分の考えを発言しやすくし、生まれた疑問を質問したり答えたりする活動を通して、少人数での話し合いスキルを高めることができた。また、2年目は、「聴いてつなげて話し合う」のスキルを身に付けることをねらいとして、近隣学年の授業を参観し合う「子ども学習参観」を行った。参観後には、児童の感想をまとめて掲示し、学年末までに取り組むポイントなどを各学年で話し合うことで、「聴いてつなげて話し合う」ことへの児童の意識を高めることができた。しかし、教師や児童へのアンケート結果から考えを広げたり深めたりする学び合いは、まだ十分とはいえない。

そこで、今年度も昨年度の研究主題を継続し、少人数でも一斉の場でも互いの考えのよさを認め合い、疑問に思ったことを質問し合い、児童同士、または教師のコーディネートで発言をつなげながら自分の考えを広げたり深めたりして学びを実感できる児童の育成を目指していく。友達と関わり合いながら児童一人一人が笑顔で「できた。分かった。」と自分の学びを感じ、達成感を味わうことで、学校目標である「笑顔満点！西根っ子～たのしい うれしい みんなの学校～」の具現化が図れるように研究を推進していく。

3 研究の仮説

- (1) 児童に働かせたい「見方・考え方」を明確にした単元構成や授業展開を工夫することによって、課題を見付け自ら考えようとする意欲をもつ児童が育つであろう。
- (2) 話し合いの場で、児童同士で質問し合ったり、教師が発問・問い返し・発言の価値付けなどをしたりすることによって、話し合いながら考えを広げたり深めたりする児童が育つであろう。
- (3) 今までの学びとのつながりや学び合いによる自己の変容を振り返ることによって、児童は友だちの考えを聴くことの価値に気づき、学び合う楽しさを感じ、課題解決の喜びを味わうことができるであろう。

4 目指す子どもの姿

- (1) 課題を見付け、「考えたい」「解決したい」と思う子ども
- (2) 友だちと学び合い、考えを広げたり深めたりする子ども
- (3) 「できるようになった」「分かるようになった」「友だちと話し合うと分かるようになる」と実感できる子ども

5 研究の重点

児童が聴いてつなげて話し合って、考えを広げたり深めたりする指導の工夫

6 共通実践事項

(1) 課題意識を高める導入の工夫

- ①児童の問いを生かした課題を設定する。
- ②育成を目指す資質・能力、「見方・考え方」を働かせる児童の姿を明確にもち、「課題」と「まとめ」の整合性を図る。

(2) 考えを広げたり深めたりする学び合いの充実

- ①「話型（学習スキル）」に基付き、パブリックな対話力を高める。
- ②話し合う目的や視点を明確にし、自分の考えと友だちの考えを比較検討し、友だちに「問い」を発したり、友だちへ説明したりする場を設定する。
- ③児童の考えを広げたり深めたりすることにつながる発問や問い返しをしたり、児童の発言を価値付けたりする。

(3) 一人一人が学びを実感できる振り返り

- ①振り返りの視点を明確にし、今までの学びとのつながりや学び合いによる自己変容を自覚させる振り返りにする。
- ②児童の振り返りを学級全体で共有し教師が価値付けることで、児童が友達の考えを聴くことの価値に気づき、学び合う楽しさを実感できるようにする。

(4) ユニバーサルデザインの視点による支援の工夫

- ①時間の構造化
 - ・授業ごとの流れを示し、どの活動を行なっているかを示す。
- ②刺激量の調整
 - ・掲示、音、目に入る人の動きなど、集中の妨げになる教室内の刺激をある程度制限する。
- ③ルールの明確化
 - ・学習の約束（にしねっ子のまなび）、話合いの仕方（話型）などの学習のルールを設定し、授業の参加をしやすいようにする。
- ④クラス内の理解促進
 - ・間違っただけや分からないことなどを安心して言えるクラスにする。
- ⑤視覚化
 - ・聴覚情報と視覚情報の2つの情報で提示し、視覚優位の児童にも情報が入りやすいようにする。
 - ・単元の内容に関連する既習事項を掲示する。
- ⑥焦点化
 - ・学習のねらいや活動を絞り込んで授業展開をシンプルにする。
- ⑦共有化
 - ・ペア学習やグループ学習などの活動を取り入れ、理解がゆっくりの児童は友達の意見を聞いて理解を進め、理解が早い児童は、自分の意見を説明することでより深い理解に繋がるようにする。
 - ・「わかった」「できた」が実感できるようにまとめ方のモデルを提示し、理解を揃える。

(5) 効果的な ICT の活用

- ①MetaMoJi Classroom や Teams を利用して、児童の考えや振り返りを学級全体で共有化する。
- ②児童の考えなどを画面へ表示し、書き込みなどの機能を活用して分かりやすく説明させる。
- ③タブレット PC 等を活用し、校内の他学年との交流学习や他地域の学校との交流学习を行う。

教科等	研究主題・重点
国語	『言葉に着目して、粘り強く吟味し、伝え合い、考えを深める子どもの育成』 <ul style="list-style-type: none"> ・単元で育成を目指す資質・能力の焦点化 ・「言葉による見方・考え方」を働かせ、互いの思いや考えを伝え合い、思考を深める場の工夫 ・目的や意図に応じて、図書や ICT を活用し、必要な情報を取り出して、課題解決に生かす主体的な学びの保障
社会	『社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究・解決しようとする子どもの育成』 <ul style="list-style-type: none"> ・資料や体験から、驚きや問いをもたせ、学習課題につなげる導入の工夫 ・調べたことを論理的に説明したり、考えたことを基にした話合いを取り入れたりする言語活動の充実や児童一人一人の学びを共有する ICT の活用 ・新たな問いを見いだすために、社会的事象の特色や意味を考え、自分の言葉でまとめ振り返る活動の充実
算数	『数学的に問題発見・解決する過程を通して、主体的に問題解決をする子どもの育成』 <ul style="list-style-type: none"> ・学びのつながりを意識できる見通しと振り返りの工夫 ・自分の考えや集団の考えを広げ深めるための比較・検討、関連付け、ICT の活用などの工夫 ・学びの実感につなげるための評価及び振り返りの場面や方法の工夫
理科	『観察・実験の結果に基づき、科学的に思考したことを適切に表現する子どもの育成』 <ul style="list-style-type: none"> ・気付きや疑問を顕在化し、自ら問題を見いだすことができる学習課題の設定 ・根拠のある予想や仮説を基に、観察・実験の結果と比較して考察できる学習展開の工夫 ・互いの考えを比較・検討したり、総合的に考えたりする話合い活動の設定 ・理科を学ぶことの意義や有用性を実感し、獲得した知識や技能を活用・発揮できる学習展開の工夫
生活	『具体的な活動や体験を通して、人、社会及び自然との関わりを深め、気付き考える子どもの育成』 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の思いや願いを大切に、主体的に活動や体験をし、表現できる支援の工夫 ・気付いたことを基に考えることができる、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動の工夫
音楽	『自分の思いや意図をもって感じ取ったり考えたりしたことを表現する子どもの育成』 <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽的な見方・考え方」を働かせて、表現したり味わったりすることができる教材や指導の工夫 ・自分なりの感じ方を表現や鑑賞に生かしながら、感じ方や考え方を互いに深め合う学習過程の工夫
図工	『想いをふくらませ、自分らしい方法で表し、造形活動を楽しむ子どもの育成』 <ul style="list-style-type: none"> ・形や色、イメージを豊かに捉えて発想を広げ、自分の思いを表現できる題材の工夫 ・感じ取ったことを伝え合う場を効果的に組み入れた学習過程の工夫
家庭	『学んだ知識や技能を生かし、生活を工夫し創造しようとする子どもの育成』 <ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活との関わりや社会とのつながりの中から問題を見いだす適切な題材設定の工夫 ・知識や技能が生活と結び付いていることを実感する実践的・体験的な学習活動の工夫
体育	『運動の楽しさや心地よさを味わうとともに、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方ができる子どもの育成』 <ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性や楽しさを実感するための知識と技能を関連付けた指導の工夫 ・考えの広がりや深まり、自分や友達の成長を実感する視点を明確にした話合い活動や振り返りの工夫
総合	『自ら設定した課題と向き合い、よりよい解決に向け、主体的に探究的な学習に取り組む子どもの育成』 <ul style="list-style-type: none"> ・学習対象との関わり方や出合わせ方等の工夫（課題の設定） ・収集目的の明確化、体験を通じた情報収集の設定（情報の収集） ・情報を吟味することの必要性について考える場や整理・分析する方法を決定する場の設定（整理・分析） ・相手意識・目的意識の明確化、伝えるための具体的な方法を選択する場の設定（まとめ・表現）
外国語 外国語 活動	『自分の考えや気持ち、事実などを進んで伝え合い楽しもうとする子どもの育成』 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに付けたい力を明確にし、相手を意識しながら対話が図られるような言語活動の設定 ・コミュニケーションを図る楽しさを体験し、習得した知識や技能の必要性や有用性を実感する言語活動の工夫 ・考えを整理したり繰り返し表現したり、伝え方を再考したりできる活動の展開の工夫